

# 令和2年度 事業報告

## I 概要

少子高齢化の進行により、わが国における高齢化率(65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合)は、2020年9月現在で 28.7%となり、第2次ベビーブーム期の世代が 65歳以上になる2040年には 35.3%になる見込みです。また、生産年齢人口(15歳以上65歳未満の人口)は、1995年の 69.4%をピークに減少に転じ、2010年に 64%、2020年は 59%となり、2040年には 54%まで減少すると見込まれております。

このように急速に進む少子高齢化のもと、深刻化する労働力不足を乗り越えるため AI やインターネットなどのデジタルテクノロジーを駆使した業務の効率化を図るとともに、政策面では「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の改正により、70歳までの就業機会確保が企業の努力義務とされ、外国人労働者の受け入れ促進、女性の労働力率の向上に加え、シルバー人材センターの、人手不足分野等での就業機会の開拓・マッチング機能などへの積極的な取組み強化に、社会的な期待が高まっています。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の拡大という雇用環境への逆風に晒された 1年ではありましたが、当シルバー人材センターでは会員の社会参加、社会貢献、生きがいの充実を図るとともに、地域社会へのニーズに応えるために、会員増強と就業機会の確保を積極的に行いました。

その結果、請負事業の契約額では前年比  $\Delta$  0.3%と僅かに減少したものの、派遣事業においては契約額が前年比 1.6%の増加となり、会員数では 過去最高の 98名増となるなど、着実に事業の拡大を図ることができました。

また、女性会員のさらなる拡大に向けて、従来の「女性限定おしごと説明会」や「女性のための生涯学習講座」などの女性向けイベントの開催に加え、新しく女性部会「がマダム1000」の立上げ準備を行い、女性会員拡大のための積極的な活動を展開しました。

令和2年度の事業報告の詳細につきましては、以下のとおりです。

## II 活動報告

### (1) 就業機会の確保と組織的提供事業

「就労意欲のある会員の就労支援」の理念の基に、会員の就業ニーズと地域企業等のニーズを把握・分析し、就業機会の拡大に向けた取り組みを行いました。

特に、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、新たな職域として小中学校の消毒作業を受託する等、感染防止に配慮しながら新しい就業機会の確保に努めました。

- 会員の多様な就業ニーズに応えるため、請負就業、派遣就業、職業紹介など多様な働き方を提案するとともに、発注先に対してもチラシ等によるシルバー事業の紹介、過去のお客様への訪問、電話による就業機会の掘り起こし、公共機関への積極的な就業開拓などを行い、就業機会の拡大を図りました。

- 会員の就業ニーズに応じた就業情報の提供を行うため、ホームページや毎月発行の会報誌を充実させるとともに、就業相談を随時行い就業機会の拡大を図りました。

## (2) 指定管理事業

「生きがいセンター」の指定管理者として、新型コロナウイルス感染症への予防対策を徹底し、利用者が安全・安心して活動できるように情報の収集、周知を行い、地域の活性化のために、人づくり・地域づくりの拠点としての役割を果たしてきました。

- 「生きがいセンター」の指定管理者として、度重なる利用制限の情報を的確にお知らせし、自動体温測定器の設置、アルコールなどによる日々の除菌作業を徹底し、コロナ禍における「生きがいセンター」の利用促進に努めました。
- 例年開催している地域密着イベントの「生きがいセンターまつり」については、3密などに配慮し、規模を縮小して開催しました。  
また、新たに10月のシルバー普及月間に合わせて「シルバー・オータムフェス」を開催し、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域づくりに貢献しました。
- 「生きがいセンター」の運営の改善を図るため、利用に関するアンケート調査を実施した結果、新型コロナウイルス感染症の予防対策については、9割を超える利用者から「十分な対策である」という評価を頂くなど、安全・安心な利用環境の整備に努めました。

## (3) 有料職業紹介事業

企業の求人情報と、会員の求職情報をマッチングさせ、本人が直接雇用を希望する場合や、直接雇用が適切であると判断される業務については積極的に有料職業紹介により対応しました。

- 企業訪問による就業機会の開拓や、ハローワークの求人情報の活用などにより企業のニーズを幅広く収集し、直接雇用が相応しい業務については職業紹介という方法で会員に情報提供を行い、新たに6件の職業紹介を行いました。

## (4) 労働者派遣事業

高齢化や労働力人口の減少が進行する中、多くの業種における人手不足分野や、現役世代を支える分野において、シルバー人材センターがその担い手として期待されていることから、当センターにおいても「適正就業ガイドライン」の順守を徹底しながら労働者派遣事業の拡大を図ってきましたが、新型コロナウイルス感染症による雇用情勢の悪化により、事業の大幅な拡大はできませんでした。

- 地域と会員の就業ニーズのマッチングを図るために、派遣受入事業所の開拓を推進してきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、新規受注件数は10件の増加にとどまり、契約金額も前年度比1.6%の微増となりました。
- 発注先企業ならびにセンター職員に対して「適正就業ガイドライン」の周知徹底を行い、就業の適正化を図りました。

#### (5) 知識及び技能の付与を目的とした講習の実施事業

会員の関心が高い業務に関する知識、技能のスキルアップを図り、将来的な就業の機会に繋げていくことを目的に、各種の研修や講習会を開催しました。

- 県シルバー人材センター連合会の主催する高齢者活躍人材確保育成事業を活用し、一般市民向けの「木造空き家対策技能講習」を新城市シルバー人材センターとの共催により開催しました。
- コロナ禍において、研修や講習会等の開催が制限される中、感染防止対策を取ったうえで、一般市民向けに「草刈り講習会」、「剪定講習会」の就業体験講習会を開催するとともに、会員向け公開講座を4回、女性のための生涯学習講座を1回開講し、会員の生きがいの充実、社会参加の促進を図りました。

#### (6) 調査研究事業

会員増強ならびに新規事業参入へのノウハウを習得するため、「月刊シルバー人材センター」にある好事例を積極的に収集するとともに、先進シルバーへの視察研修を行うことで 独自事業への情報収集に努めました。

- 女性会員の増強、活性化を図るため、県シルバー人材センター連合会の「女性委員会」に委員として参加し、多くの視察研修、課題研修を経験したことにより、当センターの女性部会「がマダム1000」の立上げへのプロセスに、大変勉強になりました。
- 未就業会員の実態把握のため、電話による聞き取り調査を行い、未就業理由の分析と就業相談を行うことで、退会抑止と未就業会員の減少に努めました。
- 独自事業の立ち上げ準備のため、大府市シルバー人材センターに視察研修に訪問し、「シルバー寺子屋」、「喫茶事業」、「家事援助サービス」など、多面的な事業展開への説明を教示していただきました。

#### (7) 相談事業

センターの円滑な事業運営と活性化を図るため、入会希望の相談、既存会員の就労に関する相談会などを定期的に、また随時開催しました。

- コロナ禍においても、マスクの着用、検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保など 感染防止対策を徹底し、人数制限、会場の分散など開催の工夫をしながら完全予約制での「おしごと説明会」を実施しました。  
また、定例の説明会に加え、女性限定、地域限定、業種を特定した説明会など様々な切り口で入会希望者との相談の場を設けたことにより、過去最高となる98名の新規会員増という成果を得ることができました。
- 未就業会員には随時電話や窓口相談等により お仕事の紹介を行い、情報の提供と就業機会の確保に努めました。
- 発注希望者からの相談については、ホームページの充実、チラシ等の広告媒体の配布などにより、シルバー事業の周知を図りました。

#### (8) 安全・適正就業推進事業

シルバー会員の安全かつ適正な就業を徹底するため、安全意識の向上、作業中の事故防止、就業途中の交通事故防止などの啓発を図るとともに、「適正就業ガイドライン」の周知を行い就業形態の適正化を推進しました。

- 「安全・安心なシルバー人材センター」を目指して、当センターでの事故発生状況や、県シルバー人材センター連合会の「事故報告書受付一覧」の内容について、毎月の衛生委員会での報告や、会報への掲載を行うとともに、各種班長会議等の機会に、事故防止策の検討や安全作業の啓発を行いました。また、全会員に対して安全標語の募集キャンペーンを実施して、安全意識の向上を図りました。
- 剪定作業での転落事故防止、草刈り作業での飛び石事故防止、派遣就労での危険作業防止のため、各分野ごとに安全就業パトロールを実施し、安全意識の啓発と注意喚起を行いました。

#### (9) センターの活動等について周知を図る事業

シルバー人材センター事業の理念、活動の普及啓発をするため、会員の増強、活動のPR、ホームページの充実、地域イベント等への積極的な参加により、シルバー事業への理解と協力を地域住民ならびに関係者に広く周知しました。

- 会員拡大のため、定例のおしごと説明会の他に、女性限定おしごと説明会や剪定・草刈りといった業種を特定したおしごと説明会など、工夫を凝らした入会キャンペーンを実施しました。
- コロナ禍において規模を縮小しましたが、地域住民との交流のために例年開催している「生きがいセンターまつり」を実施し、また、シルバー普及啓発促進月間への取り組みとして、10月には「シルバー・オータムフェス」を開催するなど、地域住民とのコミュニケーションを図りながら、シルバー事業の理念、活動を広く周知し、啓発活動を推進しました。
- 市に対して、シルバー事業への理解と積極的な協力の要請を続けたことにより新しく 新型コロナウイルス感染症対策として導入された、小中学校への消毒作業の受託が決まり、延べ60名の就業機会の確保ができました。

#### (10) その他センターの目的を達成するために必要な事業

高齢者の社会貢献活動を通じた健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会の福祉の向上と活性化に貢献するため、蒲郡市からの委託事業である「高齢者介護支援ボランティア事業（まごころDEちよいボラ）」を推進しました。

- コロナ禍において満足な活動ができず、年3回計画した技術研修も1回の開催にとどまるなど、会員の増強や活動内容には、かなりの制約がありました。そのため、活動ポイントは前年度比で76%の減少となりましたが、会員は2名増加し、今後の「まごころDEちよいボラ」活動への大きな励みとなりました。